

香川県の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和2年11月11日実施）

令和2年11月11日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

#### 1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、1例目の発生農場から約1.9km離れた、丘陵地の中腹に位置し、付近は雑木林に囲まれている。また、農場敷地の周囲に複数のため池があり、鶏舎から最も近いものまでの距離は約30mであり、現地調査時に、カルガモ30羽、コガモ26羽などが認められた。このため池から農場を挟んで約150m離れた反対側に、1例目調査時に確認した長径約500mの池があり、今回の調査では、ヒドリガモ287羽、マガモ74羽、ホシハジロ33羽など、多数の水鳥類が確認された。
- ② 当該農場には10棟の鶏舎があり、すべて平飼いの開放鶏舎であった。発生時、南側の6鶏舎には肉用種鶏が飼養されていたが、北側の4鶏舎はすべて空舎であった。発生鶏舎は、農場の中央付近に位置していた。

#### 2 通報までの経緯

- ① 11月6日、1例目の発生に伴い実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 管理人によると、発生鶏舎では1日あたりの死亡鶏は0~1羽程度で推移していたが、11月9日に4羽の死亡があり不審に思っていたところ、11月10日早朝に7羽、その数時間後に9羽の死亡が確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 管理人によると、11月10日の死亡鶏は発生鶏舎内に散在しており、一部では肉冠の黒赤色化が確認されたとのこと。

#### 3 管理人及び従業員

- ① 当該農場の鶏舎の管理は、6名の専属の従業員によって行われており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収して、付近の農場で共有の死亡鶏保管施設に1例目の発生が確認されるまで搬出していた。なお、従業員ごとに、担当する鶏舎は分かれていない。
- ② 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していた。また、鶏舎毎に専用の長靴と踏み込み消毒槽を設置していたが、長靴の履き替えの際に鶏舎内外の動線が交差していた。なお、鶏舎毎の手指消毒は実施しておらず、従業員によっては手袋の交換も行っていなかった。

#### 4 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥などの侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞などの混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 飼養鶏への給与水は、消毒した地下水を使用しており、くみ上げ後、給水まで外気への開放部分はなく、野鳥の糞などの混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏糞の除去と鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのことであった。
- ④ 農場の入口には動力噴霧器が設置されており、管理人によると、車両が当該農場に出入りする際は、従業員がこの動力噴霧器により消毒を行っているとのことであった。
- ⑤ 発生鶏舎の側面は金網（マス目は約3×4cm）とその外側にロールカーテンが設置されている。管理人によると、発生時には、ロールカーテンは、日中は一部を開放

し、夜間はすべて閉鎖しているとのことであった。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎の側面の金網とその外側のロールカーテンは、いずれも一部に破損がみられた。金網には、小型の野鳥が鶏舎に侵入した形跡が確認された。また、鶏舎の壁面や、壁面下部と土台（基礎）との間に小型の野生動物が侵入可能な3cm程度の隙間がそれぞれ確認された箇所があった。
- ② 鶏舎内にはネズミによるものと思われる断熱材の齧り痕が確認された。管理人によると、電気配線の故障などネズミの存在を疑う異常がある場合には殺鼠剤の設置による対策を行っているとのこと。